

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	話し合いの内容を蜜にし、常に全職員が同じ方向を向いてケアに臨めるようにしたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族会議等の実施を試みていきたい また、自治会の参加は検討中
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	より交流を深めていけたらと思う
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	機会を増やす努力をしたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の方の相談に乗ったりすることはあるが、特に積極的に取り組んでいない	○	事業所ぐるみで取り組んでいく必要がある
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員外部評価調査報告書に目を通し、改善点等の確認をして日々のケアに取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの活動報告を中心に、民生委員、福祉協力員、近隣ホーム職員、包括職員、ご家族の参加があり、定期的に開催できた		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れ、市町村が主催する研修会に積極的に参加している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前の入居者で成年後見制度をとられている方がいて、その際いろいろ勉強させていただいた。必要と思われる方がいたら案内していきたい	○	理解不十分なところがあり、職員皆で更に学習していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時、入浴時等、入居者の身体チェック等を行い、変化に気を遣いケアに取り組んでいる。	○	言葉や態度による虐待もあり、研修等に参加したり、職員間で気をつけ合って意識を高めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	支援相談員、管理者が文書を通し、十分な説明を行ない、理解・納得の元に契約・解約するよう努力している		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の入れ替わりで、自分の意見が言える方が増えてきた。傾聴する姿勢を持ち、希望に添えるよう努力したい。また、意思表示の出来ない方は、些細な言葉や行動から心情を読み取るようにしている	○	本人の思うところを深く知るよう、努力していきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご面会が多いので、その都度お話しする機会を設けている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時の会話の中で、意見、不満、苦情の言いやすい雰囲気を作るよう努力している	○	御家族同士が触れ合える機会を設けていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置し、月に1度のミーティングでとりあげ、皆で考える機会を設けている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常勤務より職員数を要す場合は、時間外出勤をお願いし、スムーズに運営できるよう心がけている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列のホームが2つあるが、離職時の補充の他は職員異動はなく、馴染みの関係が保たれている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障のない限り、職員の段階に応じた研修に参加している。また、資格習得のための内部研修や資料の提供、勤務調整等、実施している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会には毎回参加し、意見の交流が出来るようにしているが、その他のネットワーク作りとなると行き届いてない感がある。今年度より、運営推進会議にて他GHの交流を試みている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な慰労会、レクリエーションが計画されている。日常的なことは制約が少なく、現場の職員に任せて下さっている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	段階に応じた研修会への参加、また、必要に応じて話し合いの場を設けていただいている	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接、または、現在に至るまでの生育歴、生活歴、家族状況等を文書に記入していただき、早い段階で本人像をつかみ、ケアに生かす努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同様の方法で、ご家族の希望を聴き、双方協力して本人が早く馴染める環境を作るようにしている。三者が円滑にいくよう努力している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、支援相談員の意見を仰ぎながら、スタッフで早急に話し合いを持ち、最適な支援を見出すよう努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアプランの更新や、必要と思われるサービスを開始したい時は、必ず御本人、家族の承諾を得た上で実施するようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や散歩、体操等、日常を共にしながら、昔ながらの慣習、歌等を教えて頂いたり、冗談などで笑い合ったりと、良い関係が築けている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	体調管理、日常生活を送るのに工夫を要す事など、相談をし、共に本人を支援していけるようにしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係の理解に努めると共に、現状に合わせて、それぞれのご家族に応じた支援をしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使用されていた物、若い頃や家族の写真等、自室に置けるようにしている。また、自由な面会、面会時はゆっくり寛げるような配慮をしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が媒介となり、コミュニケーションが図れるよう努めているが、認知症のレベルや性格により、難しい場面もある	○	共通の話題の提供等、コミュニケーションを図れるよう職員も日々努力したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節の葉書きを交換したり、相談に応じたり、また、訪問したりと、入所時の関係を断ち切らないようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動を蜜に観察し、本人が何を希望されているのか把握する努力をしている。また、意思表示のできる方はその都度、意見を求め、本人の意向が反映できるようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聴き取りや、アセスメントシートを活用することで、これまでの暮らしを把握するよう努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の希望や体調に合わせ、各々に応じた暮らしを提供できるようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人担当職員、支援専門員、管理者とで、ミニカンファを開き、意見を抽出した後、全体のカンファレンスを開き、煮詰めていく。また、ホームとしての計画を家族と話し合い、最終的に作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年4回の見直しの他、介護度の変更や入院等の状態の変化に応じて、新たな計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者日誌、朝夕の申し送り、申し送りノート等で、気づきや情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の付添いや、併設の通所施設の利用、同系列のグループホームとの交流を行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、消防の行事参加で交流を図り、緊急時に備えている	○	取り組みはしているが、回数的には少なく、蜜にしていく必要性あり
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向に応じ支援していきたいと思っているが、現在は活用していない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会には、包括支援センターの職員にも参加していただくよう呼びかけているが、現在本人の意向や必要性が生じていない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の管理される医療機関で受診していただくようにしている。また、受診の際は情報提供書を作成し、適切な医療が受けられるよう支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	かかりつけ医に情報の提供を行い、現状は伝えているが、認知症に関しての専門医が少ないのが現状では？	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	母体の老健施設の看護職員に相談したり、協力病院の訪問看護を利用したりして、看護面での支援をしている	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	スタッフ全員で休日等利用して御見舞いに行き、医療機関と情報の交換を行っている。また、持ち帰った情報を元に病状やADLの状態を考慮して、医療機関や家族と話し合いを持つ事もある	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	契約時に方針の確認は行っている	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	段階に応じて、その都度家族と相談しながら、より良い方向を目指せるようにしている。その段階におけるホームとして、できることは全力でさせていたいただいている	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人の状態が十分に伝わるよう情報提供を行い、現在の環境が維持していけるよう、また、ケアが継続出来るよう努めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切にし、自尊心やプライバシーを傷つけないよう配慮して、言葉かけや対応が出来るよう取り組んでいる。個人情報の取扱いに留意している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い、希望を常に確認しつつ対応している。言葉で表現できない方は、日常の言動をよく観て言わんとするところを理解できるよう努めている。何でも言っていただけの雰囲気作りは大切だと思う	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望やペースで1日過ごしていただけたらと思うが、本人の生活面、健康面を考慮したり、共同生活であることを考えると全ての希望を叶えることは難しい	○ 本人の思いに応えられる支援を常に心がけたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回の訪問美容を利用。希望や行きつけがあれば、どこを利用されても構わないことは、家族には伝えてある。また、中止や長さ、スタイル等、本人の希望を考慮している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を多く持つよう心がけ、個人の状態に合わせて準備や食事、片付けをしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこ等の嗜好品を愛用されている方は現在いない。おやつ等ではなるべく好みの物が楽しめるように配慮している。家族からの差し入れも多い	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、時間誘導、一部介助、見守りと段階をおっている。最終的には自立へつなげられれば良いと思う。終始誘導だったが、自立に移行できたケースあり		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施。体調やその日の気分に合わせて、無理のないよう支援している。また、冬場は清拭と入浴を1日置きに実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	おやつ、食事、入浴等、1日の流れは概ね決まっているが、その日の状態に応じてゆっくり休息できるよう支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、家事手伝いや小物作り、散歩、レクリエーション等、気分転換が図れるようにしている	○	1人ひとりの能力を見極め、何かできることはないかと模索する努力をしていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在所持金所有の方2名。所有していることで安心を得られる場合も不穏になられる場合もある。一人一人に合わせた支援を心がけ、ご家族の理解を得て、使う楽しみも味わっていただきたい	○	お金を使う機会を増やしていきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通所施設での習字教室、散歩等、その日の気温、天候を考慮しながら外出できる機会を設けている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望をご家族に伝えたり、個別レクリエーションを利用して、思い思いの場所へ出かけられる機会を設けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて実施している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるよう、お茶を出したり自室にて面会して頂いたり、寛げる配慮をしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“禁止の対象となる具体的な行為”については理解不十分な面もあるが、身体拘束についての意識を持ち、拘束をしないケアに取り組んでいる	○	学習の機会を設けていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在感情の起伏の激しい方がおり、不穏時は仕方なく鍵をかけてしまうことがある。(レベル低下の為、玄関脇の階段が認識できず、転倒の恐れあり。)が、その他の時間は開錠している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にはチャイムをつけ、注意深く見守りすることで、常に把握しつつ所在確認に努めている。夜間は2時間置きには巡視している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、取り組んでいる	○	常に注意し、安全確保に努めたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練の実施。常に入居者の所在確認、転倒防止の見守り等、状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○	常に気を緩めることなく意識していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の訓練は学習会で実施したことはあるが、定期的には実施していない	○	窒息、骨折等、日常起こり得る事故に対して、具体的な応急手当、また、AEDの使用方法も学習していきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施。民生委員の方にも参加していただき、地域の方の協力が得られるような足がかりは作っている	○	消防署主催の研修等にも参加していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会を利用して、本人の現状をよく伝え、対応策をお互いに出し、話し合いを持っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタルチェック、また、日常の異変は皆で情報を共有し、場合に応じて施設長(医師)に診ていただく		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時の状況は必ず申し送りしている。また、本人服用の薬内容は利用者日誌に綴じ、一目で分かるようにしてある		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操、散歩、水分摂取、便秘に良い食物の摂取等、配慮している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、毎食後口腔ケアに取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後チェックし、特記があれば必ず申し送りする事で、十分に摂取出来る様に努めている。また、献立ノートを参考に偏りのないメニューを心がけている	○	老健栄養士にカロリー計算をお願いする
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を毎年実施。消毒液、マスクの常備あり。ご家族も風邪等の場合、面会を控えて下さっている	○	全職員の意識を高める事。知識を深める事に努めたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に清潔を保ち、食品は新鮮な物、熱を通す等の配慮をしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口に花、また、靴箱の上にも季節を感じられるような装飾をし、暖かい雰囲気になるよう努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃に努めている。生活、季節感を出すような装飾はしている	○	庭の手入れが行き届かないことがあるので、こまめに取り組んでいきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員個室である。居間の共用空間と合わせ、一人ひとりのペースで思い思いに過ごしていただいている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものや馴染みのある物を置いていただき、居心地良く過ごしていただけるようにしているが、状態に応じて危険が生じる場合もある		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房の活用をし、こまめに温度調節をしている。清掃時の換気、暖房時の加湿をこまめにかけている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりの設置をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の表示・トイレのプレート等、表示はしている。混乱や失敗を防げるよう、よく見守りし、優しい声かけ、否定しない対応を心がけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関脇ベンチでの外気浴、中庭、敷地を散歩されている	○	中庭の芝の管理をまめに行い、転倒防止に努めたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 情報収集に取り組み定期的にケアカンファを取り入れ、入居者にとって今何が一番大切なのかを常に親身に考え、最適な支援を試みている
- ・ 季節感を取り入れ、リフレッシュしていただけるようなレクリエーションを毎月実施している。
- ・ リハビリ体操・手芸等、活性化できるような毎日の楽しみを提供している。